天地

ネットワークテーブル　537号

天地シニアネットワーク　2022. 11. 16


| | | | |
|---|---|---|---|
| TENTI　TO DAY | | | 1 |
| 会員の広場 | | | 2 |
| 読　後　感 | 成田悠輔氏の本を読んで | 臺　一郎 | 2 |
| 歴　　史 | 「了解日本（日本を知る）（4）中国寺院・日本神社、相互の関係考察 | 兪彭年 | 5 |
| 調　　査 | 我が町秦野の歴史と現在（2） | 北林文夫 | 9 |
| 回　　顧 | 有楽町　慕情（1）「ビールはアサヒ」 | 津田孚人 | １１ |
| 事　務　局 | | | １４ |


**********

## ＴＥＮＴＩ　ＴＯＤＡＹ

**********

紅葉の季節を迎えました。各地の見ごろがいつか気になりますが、京都の観光名所、清水寺、南禅寺、東福寺などは11月23日の勤労感謝の日あたりと記憶しています。コロナが気になり遠出が難しくなって来ました。

**********

東京の東のはずれ、江戸川沿いに都立水元公園があります。東京都内で一番大きな公園で中央にある大きな池を囲んで豊富な種類の樹々が立ち並び、カワセミの里などもあって静かで落ち着いた素敵な公園です。11月初旬、春の桜のシーズンにつづいて2度目の訪問をしました。平日でしたので人もまばら、目当ての紅葉も見られ満足して帰りました。常磐線の金町駅から往復バス。5～6年前までは、松戸駅から往復歩いていたのですが自信が無くなりました。

**********

スポーツの秋、ウォーキングをする程度になりました。コロナ前は、野球の早慶戦や、秩父宮での大学ラグビーなど、観戦に出かけたのですが・・・。相撲、サッカー、プロゴルフなどのテレビ中継を楽しむ積りですが、スポーツは実戦を見るのが一番です。
北海道日本ハムの新球場が問題になっています。観客ファーストで、ルールは後、試合場に観客が来るように考えるのが本筋。

**********

米国の中間選挙が終わりました。バイデン大統領の民主党が上院で踏みとどまり、世界が安堵しました。ロシアのウクライナ侵攻も手詰まり、和平の動きが出ても可笑しくありません。国際間で、秩序回復、経済の回復の下相談が始まっているのではない

かと、推測されます。一方日本は、国力、経済力の落ち込みが現実化、その先行きが全く見えませんが、政治不安が当分続きそうで心配になります。再度の政治改革に早急に取り組むべきです。

**********

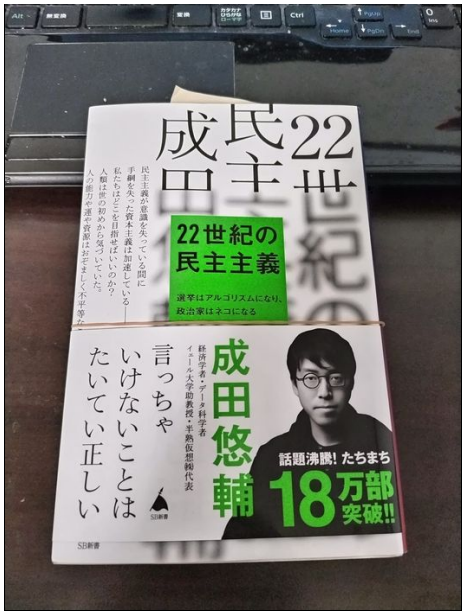
国立慕情が終わり、有楽町慕情をスタートすることにしました。進駐軍の総司令部・GHQが置かれた旧第一生命ビル・第一生命館は、敗戦日本の象徴的なビルでした。入社した1961年当時でも、接収当時の面影、傷跡がいろいろ残っていました。同様に、有楽町界隈にも戦争の面影、傷跡が多く残っていました。記憶をたどりながら、昔を拾いあげ、綴ってみたいと思っています。

**********

## 会　員　の　広　場

**********

「成田悠輔氏の本を読んで」　　臺　一郎（74歳）




米国イェール大学助教授という肩書きを持つ成田悠輔氏は今とても売れっこの若手経済学者であり、データ科学者である。この2年間くらい YOUTUBE 動画やテレビ番組で引っ張りだこだ。そんな人気学者成田悠輔氏の最新著書『22 世紀の民主主義(SB 新書)』を読んでみた。

## 最初に結論。

テレビ番組や YOUTUBE 動画での彼のスピーチやトーク、多彩な分野のキーパーソンとの対談などの方が僕には良くわかるし、すっと入ってきて面白い。著書は目次だけさっと眺めると、刺激的な見出しが飛び込んできて、面白そうに見える。けれども読み始めてみると、これが予想外に苦戦した。ちゃんと理解するには、しばしば立ち止まって反芻しながら考えないと今一わからないままに読み進んでしまう。

YOUTUBE 動画やテレビ番組などで話すとき、彼は平易に明快にわかりやすく話す。ユーモアもあり、カタカナ英語もやたらには使わない。でも著書となるとちょっと違ってくる。滞在する米国でもその論文の質や水準の高さで定評のある気鋭の学者だから、一般向けの著書であっても文章で表現する本となると論文テイストが出てきて、市井の凡人である僕には消化の余りよくない肉を食べたような印象が残った。まぁ多分に僕の地頭力や理解力の不足のせいではあるのだが。

この本は、最近良く話題になる全体主義や独裁体制と比べた民主主義の限界や弱弱点について、それを解決し突破するための方法論や解決策に関する成田氏の私見や仮説の本だ。こうしたテーマや内容からも、また学者の著書という点からも、そもそもわかり易さや面白さを期待するほうが間違いなのかもしれない。

エビデンス、アルゴリズム、メタバース、ブロックチェーンなどカタカナ英語が頻繁に出てくる点も自分にはやや引っかかった。英和辞典を引くと最初に出てくる2つ3つの翻訳日本語は知っていても、英語ネイティブならわかるその言葉の概念や状況に応じた使い方、前後の文脈から来る適切な意味などが自分は良くわからないからだ。

彼はずば抜けて頭が良い。東大経済学部の卒業論文では数年に一人しか与えられない大内兵衛賞を 2009 年に受賞した。東大卒業後は米国に渡り、世界大学ランキングで1位にもなった MIT に入学し、2016 年に Ph.D を取得した。同じ年に 30 歳でイェール大学の助教授となり、今も一年の半分は米国で暮らす。だから英単語や英熟語の本来的な概念や、文脈による微妙な意味の違いがわかるのだろう。

それにしてもこの『22世紀の民主主義』という本は、今年の7月に初版が出て、たった4ヶ月足らずで 18 万部も売れた。テーマや内容を考えるとちょっと信じられないほどの部数だ。

日本人は秀才や天才が好きだ。ビジネスで成功した大金持ちよりも、高学歴で頭の良い天才肌の学者の方を尊敬する傾向がある。テレビのクイズ番組で、《東大王》と言われる現役の東大生達が、司会者が「超～難問！」と叫ぶ難問に次々と正解してしまう姿に「やっぱ東大生はちがうわ！」と喜ぶ民族なのである。

成田氏は日本一の難関東京大学を優秀な成績で卒業しただけでなく、その後の米国での学歴・経歴や実績も素晴らしい。その光り輝く学歴に加えて、YOUTUBE 動画やテレビ番組で見せる、優しいがわかりやすく明快で忖度も遠慮もない語り口に日本人はもう降参してしまうのである。

決して簡単でも面白くもない彼の著書がベストセラーになっていることの背景要因の1つは、成田氏のこうした眩いような学歴・経歴や、YOUTUBE 動画などでの天才ならではと思わせるような明快で切れ味の良い発言も作用していると思う。

さて最後に、僕がお薦めする成田氏の YOUTUBE 動画（URL）とその中での発言のさわりを幾つかご紹介しておく。

予備校のカリスマ教師の林修氏との対談。テーマは教育問題。

https://www.youtube.com/watch?v=qrVXm5gv4tM

「ペーパーテスト中心の日本の入試は、実は公平で結構良い仕組みだと思っている。高得点さえ取れれば、親が貧乏でも、どんな場所に生まれても、性格が悪くても、友達がいなくても入学できる。これは世界的に見ても公平なやり方だ」

「日本では少子高齢化がよく問題視されるけれど、国が発展・成長できない言い訳として使われている感じがある。少子高齢化でも経済成長して、豊かさを増したり維持できている国は結構ある。ドイツや韓国などだ。機械化を思い切ってすすめるなどで豊かになれる筈」

「最近日本では経済格差の拡大が問題視されるが、その政策的対処が違っている様に思う。今のままで分配面だけいじって格差をなくそうとすると、金持ちも含めた日本人全員が貧乏になってしまう可能性がある。弱者を助けるためにこそ、先ずは稼ぎまくって納税しまくる人をもっと作るべきだ。一時的に格差が拡大しても、勝ち組を増やして富を蓄積してから弱者を救った方が良い」

元マイクロソフト日本代表取締役の成毛真氏との対談。テーマは教育・社会問題。

https://www.youtube.com/watch?v=155uN_cXtTs

https://www.youtube.com/watch?v=ljrM6jELJCk

「これまでの学校教育では全員に同じ教科書が与えられ、全員が同じ時間に同じ空間で同じことを勉強するやり方できた。しかしそういう教育は急速に意味や効用を失っている。これだけ Web が広がってくると、子供達までもがそのことに気づき始めている。今の学校教育に対して自分は多いに疑問を感ずる」

「今や才能のある子供にとって、学校はむしろ邪魔な存在にすらなっている。何を学ぶのか、どう学ぶのかを、子供達一人一人毎にカスタマイズする形でどう教育していくのかがこれからの課題だ。技術的には既に出来るようになっている」

「最近の日本は異常に安全で、安定していて、弱者にも優しい社会が少しづつ壊れてきているような感じがする。最近日本に来て、東京や大阪などのダウンタウンを夜中に歩いていると、路上で若者が殴り合っていたりして、ニューヨークなどでは当たり前の光景だが、大都会の夜の世界から日本社会の崩壊が既に始まっていると感じる」

以上のほか、経済同友会代表幹事の桜田氏との対談、ホリエモンこと堀江貴文氏との対談なども中々面白い。

**********

「了解日本」(「日本を知る」　　俞彭年　（85歳）

『第4回』

中国寺院・日本神社_相互の関係考察（つづき）

二つ目の分類は、明治 4 年（1871年）以降の神社の規則に基づいて、「官社」と「民社」の 2 つに分けられ、以下のように分類される。

「官社」は、「官幣社（大・中・小）」、「特別官幣社（靖国神社など国家的功労者）」、「国幣社（大・中・小）」の 3 つに分類されます。「民社」とは、各地域で崇敬されている神社のことで、県社、市社、村社、無社に 5 分類される。 1906 年の日本には 193,000 以上の神社があり、戦後日本が降伏した 1945 年には 106,137 の神社があった。 これは、日本人がいかに神々を崇拝し、その加護を信じていたかを示している。

古代中国では、土地の神を祭る日を「社日」と呼び、立春後の第5戊日の祭日を「春社」、立秋後の第 5 戊日を「秋社」と呼んでいた。 日本では春と秋にも神様が祀ら

れており、春の祭りは田の神の到来を歓迎し、田の神に五穀豊穣を祈る「春祭」と呼ばれている。 秋祭りは、「秋祭」と呼ばれ、豊作を感謝し、神々を山へ送り出す、一年で最も盛大で華やかな祭りである。
日本各地には、春になると山の神が田畑にやってきて田の神となり農作業を祝福し、秋になると山に戻って山の神になるという伝説がある。「春祭」「秋祭」は、古代の稲作農民による神々への崇拝を反映している。
日本の都市部では、1 年で最も賑やかで盛大な祭りが夏に行われる。「夏祭」と呼ばれる京都の八坂神社の祇園祭は、その熱気と華やかさ、壮大さで有名で、他の都市の祭日と異なる。これは、都市と農村のライフスタイルの違いの反映である。

昔の中国には、春と秋に地方で神を敬い、福を祈るために行われた「劇」があり、寺院の舞台や野外で行われるのが普通であった。
似たようなものが、日本にも歌舞音曲の一種である神楽があり、皇室が演じる「内匠神楽」と民衆が演じる「里神楽」に分けられる。 ″民俗神楽には特徴があり、出雲神楽、伊勢神楽、巫女神楽など、さまざまな種類がある。歌や踊りのほか、御能、腹話術、曲芸、競馬、弓道、徒歩射的、相撲、闘牛、闘鶏、競艇、綱引きなどさまざまなパフォーマンスやイベントがあり、これらは「鏡」と呼ばれ、中国の古い祭りに類似しています。日本では、神々をもてなすこうした演奏や行事を「奉納」と呼んでいる。

中国古来の神々を祀る儀式の中に、「祭祀の日に神を迎える祭祀」というものがあり、災いを払い、恵みを与えるために、神像を寺院から運び出し、祭りを行うというものであった。 同様に、日本の神々の「祭り」には、神社の神々が「神幸」或いは「巡幸」といって練り歩く「神輿」があった。 ″神社の神様 ″は、自分の担当する地域を訪れると、お祓いを受けて霊力を授かるとされている。 神輿のほか、山車と呼ばれる花で飾られた車と白い神馬も練り歩く。 ″山車 ″も ″馬 ″も、神々の御輿と乗り物である。 ″車 ″の ″山 ″は、ご神体がある霊山の象徴であり、車輪を備え、歩行に推奨できることから「山車」と呼ばれている。「神道」と「山伏」はそれぞれ個性的な装飾が施されており、地域の観光名所となっている。
昔の中国の神社の日に演奏された太鼓と同じように、日本の神様が巡行する時に山車や徒歩で演奏される太鼓を「祭り囃子」といい、とても賑やかで、お祭り気分を盛り上げてくれる。主な楽器は笛、太鼓、和鉦で、場所によって異なり、他の楽器を加えるところもある。囃子は場所によって異なり、有名なものでは祇園囃子、神楽囃子、神田囃子、山鹿囃子などがある。

## ３．　崇拝される神々や精霊の多様性

中国の寺院に祀られている神様は、神話の神々から、有名な軍人や文学者などが神格化され、偉大な功績を残したものまで様々である。 土地神は土地の神を祀る廟、龍王神は東シナ海の龍王を祀る廟、女神は巫女山神を祭る廟、山神は泰山を祀る廟、城隍神は街を守る市神（各都市には市神の社があって、例えば上海の市神は霍光、秦裕伯、陳華成の３名）を祀る廟である。 関帝廟は、三国志の関羽を祀る廟である。孔子を祀る「孔子廟」（別名「文廟」）、宋の名将を祀る「岳王廟」（別名「岳父廟」）がある。

日本の神社には、中国の寺院と同じ神話の神々や、神格化されて残された有名な軍人や文学者などが祀られている。 稲荷神社に祀られているのは、宇迦之御魂神（うかのみたまのかみ）、又は倉稲魂命（うかのみたまのみこと）とも呼ばれ稲荷の神である。この神は籾の精霊から神化したため、倉稲神とも呼ばれる穀物の神である。
奈良時代（７１０年～７８３年）、京都の伏見稲荷大社の社伝によると、和銅 4 年（711 年）に稲荷山三峰に稲荷大神が降臨したとある。
稲荷信仰は、もともと当時山城国（現在の京都府南部）に住んでいた渡来人秦氏の穀物神信仰であり、灌漑施設を整備して農業生産を発展させ、蚕を飼って布を織り、生産を発展させ、繁栄させた。秦氏の勢力拡大とともに稲荷信仰の範囲も広がり、稲荷神社では稲荷神と宇迦之御魂神が合祀されるようになった。数ある食の神の中でも、稲荷は最も代表的で霊験あらたかな神であり、そのため全国に大小 4 万～5 万もの稲荷神社があるという。 特に五穀豊穣、産業の繁栄、家内安全、技能の向上などに効果があるとされています。

　稲荷神社に次いで全国に 3 万～4 万社あるといわれる八幡神社は、文武両道の神様、八幡様、「別名：誉田別命（ほんだわけのみこと）、応神天皇」を祀る。 敗戦・降伏前の八幡様は戦いの神として祀られていたが、敗戦・降伏後は教育・縁結び・交通安全など日常生活に関わる功績の神として祀られるようになった。 八幡神への信仰は、大陸文化が最初に流入した西日本の北九州地方で行われ、大陸文化に地元のさまざまな土着の信仰や外来仏教が混じり、次第に武士の守護神として成長し、日本全国に浸透していった。
八幡神信仰発祥の地は、九州の大分県にある宇佐八幡宮で、 仏教の影響を受け、八幡大菩薩とも呼ばれ、文武の神とされる。八幡神は、国土の守護、生産振興、家門繁栄、出世、教育、交通安全、病気や災害の除去、願望成就などに効果がある強力な神である。

伊勢神宮、皇大神宮、神明社は、太陽の神であり、皇室の祖先の神でもある天照大御神を祀っている。 天照大神は太陽を意味し、古代の日本人は太陽を崇拝し、太陽神や日神と呼ばれる神に変身させた。 日本の古書『古事記』や『日本書紀』には、天照大神を天皇の祖霊とする天孫降臨の神話がある。
このように、天照大神は太陽神であると同時に皇室の祖先神でもある。 天照大神は「八百万」（たくさんという意味）の神の上に立ち、「八百万」の神を支配している女神である。 天照大神は何でもできる万能の神と信じられている。 日本全国には 18,000 の皇室関係の神社や神明社がある。 天照大神の通称は「お伊勢さん」「神明さん」。

天満宮、北野神社、菅原神社、天神社は、学問の神様である菅原道真公を祀っている。 845 年に生まれ、18 歳で「文章生」（進士ともいう）、23 歳で「文章得業生」（秀才ともいう）に合格し、23 歳で文章博士になり、その後 55 歳で醍醐天皇の右大臣になった。
しかし、菅原の出世は有力者である藤原家の嫉妬と恨みを買うことになる。901 年、菅原道真は藤原時平の陰謀で北九州の太宰府に島流しされ、2年間の不遇の後無実の罪を着せられたまま他界する。後の 905 年に弟子たちが彼のために太宰府天満宮という寺院を建立した。
菅原道真の死後、都では一時期、宮中に雷が落ち、菅原道真の冤罪を着せた藤原時平が病死するなど、異変に悩まされ、特に 930 年には紫宸殿に雷が落ち、多くの死傷者が出た。
人々はこの怪奇現象を、北野に祀られていた火雷神と一体化した菅原道真の亡霊の仕業とし、恐れ、その霊を鎮め、落ち着かせるために、北野地区に北野天満宮を建立し、天満天神、天満大自在天神として神格化し、祀ったのである。 現在、菅原道真公を祀る神社は 10,441 社あり、その数は第 4 位である。 特に受験合格、文武両道、進学、農業、守護神、病気平癒に効果があるとされている。

日本の神社は、祀られている神様によっていくつもの系列に分かれており、厳島神社系では海神・宗像三神様、貴船神社系では水神・高霊神様、住吉神社系では海神様、航海の神様、和歌の神様の住吉三神様など、同系列神社では同系列の神様が祀られていることがある。 日本神話に「八百万の神」とあるように、多くの神社があり、それぞれの特徴、分野が異なるため、人々は必要に応じて異なる神社を選び、異なる神を祀り、希望する分野での神の加護を祈願している。

日本の神社は、中国の寺院と同じように、神を祀る習慣から生まれたもので、神を祀るための必要な設備が整った公共の場である。 したがって、日本人が神社に行って

神を拝むのは、信仰心があるからではなく、神を拝むという単純な精神性からである。神社神道（国家神道とも呼ばれ、日本の軍国主義や天皇制のイデオロギーの精神的支柱であったため、敗戦・降伏後に解散した）や宗派神道（黒住教、金光教、天理教、神道、御嶽教など）は、一種の宗教であって、これらの宗教が行っている活動は宗教活動であり、一般の人が神社に行って神を拝むのと性質は同じでない
（この項終わり）
**********

## 我が町・秦野の歴史と現在（2）　　北林文夫（85歳）

### 丹沢山地

丹沢は東西に40km、南北に20kmの範囲に標高1000～1600mの60の山々が連なっています。神奈川県の面積の6分の一を占める広大な山域です。1700万年前頃、南の海に火山島が生まれ、フィリッピン海プレートに乗り北上して、550～500万年前に日本列島に衝突して、丹沢山地が形成されました。最高峰は蛭ヶ岳（1625m）で、現在も山体は成長を続けています。
丹沢山地の基盤岩は、海底火山のころ堆積した凝灰岩で、グリーンタフと言われています。南側の山々を表丹沢と呼び、東に大山（1245m）、北に三ノ塔（1245m）、塔ノ岳（1490m）、西に鍋割山（1272m）などが聳えている。この背後が西丹沢と言われ、丹沢湖があり、中川川、玄倉川、世附川が流れています。
丹沢が本州に衝突した直後、115万年前ごろ、当時の山地を突き貫くようにマグマが貫入して冷え固まり深成岩となりました。こうしてできた岩石が丹沢の中央に見られる石英閃緑岩、トーナル岩、斑レイ岩です。
その貫入による熱や圧力によって、角閃岩、結晶質石灰岩（大理石）、菫青岩、ホルンフェルス、片岩などの変成岩が出来ています。西丹沢の結晶質石灰岩は神奈川県の天然記念物に指定されているため、採集できません。
なお、武田信玄の隠し湯「中川温泉」付近では、角閃石や緑色片岩が見られます。

県立生命の星・地球博物館・外来研究員の門田真人氏は、西丹沢奥の加入道山でサンゴ化石とともにオウムガイ化石を採集しました。これら化石は南海の海底の生物であることから丹沢の生い立ちが南の島であることが明らかにされました。
　さらに丹沢山地の各所に海底火山活動の産物である溶岩からなる枕状溶岩の15露頭が観察され、丹沢がかつては海底火山であったことが明らかになっています。

　秦野では、化石が確認されていませんが、枕状溶岩は、水無川の本谷上流と支流

木の又大日沢出会いの2露頭、四十八瀬川ミズヒ沢大滝上流とさらに上流源頭の2露頭で見られます。

秦野盆地の形成

秦野盆地は丹沢山地を北縁に、南縁は渋沢断層で隆起した渋沢丘陵及び大磯丘陵の一部と境をなしています。30～15万年前の大磯丘陵の隆起に続いて、4～1万年前にかけて渋沢断層、秦野断層の活動などがあり、渋沢丘陵が隆起に伴い、盆地の輪郭ができて、盆地が現在の地形になったと考えられます。

丹沢山地形成後、南側の窪地の凝灰岩の基盤の上に、丹沢の沢を源流にしていくつかの河川が流れて，水無川を中心に丹沢山地から砂礫などを大量に運び込んで複合扇状地を形成しました。さらに各河川は、流れをそれぞれ変えて河岸段丘を形成して変化に富んだ盆地となっています。

そしてこの動きの中で、河川争奪があり、中井の葛川に流れていた金目川、葛葉川、水無川が平塚方面に流れ、四十八瀬川は川音川に流れて、盆地の形が固まったと言えます。

盆地の基盤は丹沢層群の緑色凝灰岩（1700万年前頃の海底火山の噴出物）です。その上に丹沢から河川に運搬された砂礫、さらに箱根火山、富士山の噴火物により降下した火山灰、軽石などが堆積し、ローム層を形成しました。

※

1）40～35万年前頃から箱根火山が噴火を繰り返し、8万年前から爆発的な噴火が起こりました。6．5万年前と4．9万年前には最大級の噴火が起こり、東京軽石層が横浜で40cm降下し、火砕流も城ヶ島まで届いています。秦野の各地にもその堆積が見られます。

2）富士山は、10万年前小御岳、8万年前古富士の時代に噴火を始め、1万年前からは新富士山が火山活動を始めました。最近の噴火は、1707年の宝永噴火で降下した火山灰は軽石などが盆地内に30～50cm堆積し、農業は壊滅的な被害を受けました。

（つづく）

**********

有楽町　慕情　（1）　　津田孚人（85歳）

「ビールはアサヒ」

　10月の初め、一橋の如水会館で旧友二人と昼食、ビールで乾杯することになった。ウェイトレスに「銘柄は・・・」と聞かれ、即「アサヒ」と応じたが、「ビールはアサヒ」という第一生命勤務時代からの鉄則（？）は未だ変わらない。
　第一生命保険に入社したのは昭和36年（1961年）4月、入社して十数年たった頃、部の懇親会で上司から「ビールはアサヒ」と教えられた。
　戦後、第一生命本社ビル・第一生命館は、進駐軍に接収された。急遽移転先を探すことになったが適当な入居先が無く、窮地に追い込まれた。その時、救いの手をさしのべてくれたのが、大日本麦酒（後の朝日麦酒、サッポロビール）、だから、「ビールはアサヒ」、その恩義を忘れるな！というのが話の趣旨だった。
　しかし、キリンもサッポロも、サントリーも大事な取引先、社内的には拘りは徐々に薄れ、アサヒonlyではなくなったが、個人的にはアサヒスーパードライが一番口に合うこともあり、今もビールはアサヒにしている。

　戦後77年、日米の戦争は忘れ去られ、進駐軍、GHQ、など死語に近い時代になった。第一生命館の敗戦直後の史実も、関係者でさえ知る人が少なくなっている、と考えられる。事実は歴史として長く残り、振り返りの必要も将来必ず出てくるに違いない。
幸いなことに、第一生命館が接収された時に直接交渉にあたった矢野一郎（当時常務が、その時のことを「第一生命館の履歴書」に詳しく書き残しており、それによって接収時の経緯、その後の事情などを知ることが出来る。

参）
矢野一郎は、第一生命の創立者である矢野恒太の長男、大正12年9月に東京帝国大学農学部卒業、同13年4月に三菱銀行入社、本店外国部に6年勤めてロンドン支店に転勤、2年間勤務、昭和7年10月に第一生命保険相互会社に入社、初代財務課長となった。昭和17年12月に常務取締役に就任、戦後、昭和22年社長、昭和34年5月会長、昭和45年5月取締役相談役、昭和52年6月相談役と歴任した。

「第一生命館の履歴書」は、昭和52年1月から53年10月まで社内報に掲載され、昭和54年2月に単行本として刊行された。戦前、戦後の苦難を先ず社員に教え、つい

で社外の人にも知ってもらう、という意図だったようだ。ただし発行が財団法人矢野記念会、発売所が国勢社、といずれも身内の企業、必ずしも広く一般社会に知らせるということは考えていなかったように思われる。

以下、「第一生命館の履歴書」により、進駐軍による接収、苦難の日々を追ってみる。

昭和二十年八月三十日
　マッカーサー元帥は、厚木に着陸し、直ちに横浜のホテルニューグランドの本拠に入った。それから3日後の9月2日、ミズリー号艦上において、連合軍代表ウイロビー少将と重光外相との間で全面降伏文書の調印が行われた。

九月五日
　いままで静かだった丸ノ内に米兵が大勢現れて、頻りに建物を物色する気配が出てきた。第一生命にも勝手に入り込んできていたが、しばらくして第一騎兵師団の司令官が直接社内をみたいとの連絡が来た。担当の矢野一郎常務は、接収は免れないにしても気の荒い戦闘部隊は避け、できれば総司令部をと思っていた矢先で一瞬困惑した。

九月六日
　朝、二人の大佐が矢野を名指しで訪ねてきた。会うと総司令部の参謀将校だった。「GHQの入る家をさがしているのでは・・」ときくと「その通り」とのことだったので、「それならばこの家しかない。これは日本中で一番新しい一番堅牢なビルだから、誰が選んでもここになる。詳細な図面や資料も完全に揃っているから、必要ならお貸しする」というと、非常に喜び、午後出直してくると言って帰った。
帰り際に、「実は米兵が大勢勝手に入ってきて、断ることも出来ず、困っている」と話すと、即座に一枚のメモを書き、署名して、これを見せて断るようにと言って帰った。このメモのおかげで侵入はピタリととまった。

九月七日、
参謀副長でG4担当のイーストウッド代將と工兵司令官のケイシ―少将の二人が来館、館内を案内した。ここは生命保険会社であること、日本で最初の相互会社であること、創立者が数百万の契約書を護るために、重要書類を地下に格納するように設計した、などと詳しく説明した。
　検分後、E将軍は、連合軍は決して直接に民間の私有物を取りあげるようなことをしない。GHQに建物を提供する責任は日本政府にある。政府は、所有建物を提供すべきだが、適当な建物が無い。やむを得ず、民間の家を借り上げて提供しなければな

らなくなる。貴社に迷惑がかかる結果になるが、これは連合軍が悪いのではなく、すべて日本政府に責任がある、どうか悪く思わないでほしい。そして提供の協力をしてほしいと言われた。

そこで、出来るだけの協力はするが、地下にある書類やカードは社業の中核で、全国の契約者との連繋はすべてこれを中心として行われている。これを四散することは出来ない。東京の焼け野原には、これを移せるところは一つもない、と細かく説明した。

E代表は、事情はよく分かった。さしあたり、二階以上を提供して欲しいと述べた。一階の営業室と地下４階は、とらないということは、下半分は敵国人をいれたままでよろしいということ、日本とアメリカの軍隊の相違を初めて見た思いがした。

九月八日

マッカーサ―元帥が東京へ入城、午前中にアメリカ大使館で入場式が行われ、昼に帝国ホテルで祝賀のパーテイ―が催された。

参謀長のサザランド中将が第一生命館、明治生命館、三井本館を順次検分する予定とのことだったので、午後１時ころから玄関で待機していると、午後２時ころに急に一団となってたくさんの自動車がやってきた。先頭の車が目の前に泊った瞬間、日本政府から連合軍との連絡のために派遣されていた山形公使が「マッカーサーが来ました、マッカーサ―が来ました」と大声をあげて飛び込んできた。

山形公使のあとから、元帥とE代將が大股に歩いてきた。後続の車からは大勢の将軍たちが一斉に降り立った。あっと言う間の光景だった。元帥、E将軍、山形公使、矢野、と1台のエレベータに乗り、E将軍の指示で5階の臨時社長室に向かった。

5階の社長室、元来は会議室だったが、戦時中、6階以上を東部軍に提供したために、会議室を石坂社長の部屋にしてあった。何の飾りもない部屋だった。

元帥はしばらく中を歩いていたが、置時計の前で立ち止まった。そして“What a beautiful clock”と呟いた。それは、方々によくある緑っぽい大理石で作られた時計だった。

次に6階の社長室に行った。東部軍では参謀長が使っていたが、クルミ材で丹念に作られている本館の中で一番の部屋。しかし、窓は南側だけでやや暗い。元帥は明らかに好まないようだった。そうしてもう一度5階の部屋を見てから、1階に降り、“Thank you”の一語を残して横浜へと走り去った。矢野は、見送りながら「これで万事決まった」と直感した。

E将軍は一人残り、「昨日は二階以上を借りたいと言ったが、検討の結果、どうしても狭いので一階も提供して欲しい。しかし地下４階は会社のために残す」と言った。さらに、「事務室が必要ならば隣接している建物の中に作れるように日本政府に取り計らわせよう」と言った。

一階は会社の営業室、GHQは二階から上というのは、どうみても不自然、矢野は承諾した。

接収は、連合軍から日本政府に公文書で申し入れがあり、その後に政府から会社へ明け渡しの命令が来る、手順だった。二日後の10日（月曜日）に来ると予想されたので、相談の結果、今日中に一切の私有物を持ち去るように社内に通知を出した。

第一生命館が日本一安全な建物というので、従業員たちが大切な物を引き出しや倉庫の隅にたくさん持ち込んでいた。徹夜でやったが、その量の巨大さには誰しも驚嘆せざるを得なかった。

さあ来いという心境で待っていると、終戦連絡事務局から、第一生命は、第一騎兵師団が全館接収するという通告が来た。そんなことはない。GHQが使うのだと抗弁したが、公式命令が来ていると譲らない。矢野は、帝国ホテルにとんで行き、E将軍に会って話をすると、“You are right！”との返事があり、引き返して伝えた。当時は、それほどどこも混乱していた。

日本政府からの接収命令は10日の月曜日に来た。地上全階を15日（土曜日）正午を期限としてあけること、書類を除き家具その他一切の物の持ち出しを禁止する、という厳しいものだった。

（つづく）

**********

## 事　務　局

**********

**天地シニアネットワーク事務局　（津田　孚人）**

**住所：〒116－0001荒川区町屋3－2－1**

**ライオンズプラザ町屋703**

**メールアドレス：tentisenior06@gmail.com**

**電話・FAX：03－3819－7651**